

---

# 交換 第1話

りんごちゃん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

交換 第1話

### 【Nコード】

N0314M

### 【作者名】

りんごちゃん

### 【あらすじ】

第1話があらすじのようなものです。第2話はそのうち書きます。

## 白い部屋

「ここはどこだ・・・」

気がつくと、そこは見知らぬ部屋だった。真っ白な部屋にドアとテレビが一つだけ、あとは何もない。ゆっくり今の状況を確認する、やけに落ち着いている自分が不思議だ。真っ先に思い浮かんだのは、この部屋には一体どうやって来たのか？それを考えると同時に頭に痛みが走る。痛みがさらに自分を冷静にさせる・・・

昨日の夜会社の同僚と酒を嗜み家路に着きエレベーターに乗る。四階に着き自分の家のドアに手をかけたときから記憶がない。どんなに思い出しても自らの足で、この見知らぬ部屋に赴いたとは考えられない。頭の痛みから察するに、後ろから誰かに襲われこの部屋に連れてこられたに違いない。いったい何の目的で？

「くっ、ダメだ！開かない！」

部屋にあるドアを開けようとするがもちろん開かない、他の脱出方法を模索するが何もないこの部屋から出る術が無いことはすぐに分かった。簡単に脱出ができないのを理解した瞬間を分かったかのようにテレビの画面がついた。そこには見たことの無い女性が映っていた。画面の中にいる見知らぬ女性は白衣を着ている、医者だろうか？だとするとここは病院？もしくは研究所か何か？少ない情報を元に、ここがどういった場所なのか模索した。すると女性が口を開く。

「目が覚めた？あなたには少しの間実験につきあってもらおうわ。」

「ふざけるな！早くここから出してくれ！！」

「安心して、実験が済めばちゃんと家に返してあげるから。」

ブツン

テレビの画面が消えたと同時にドアが開く、白衣を着た男が数人入ってくる。見た目でわかる、力でかなうはずがない。

「やめろ！離してくれ！うゝわぁゝぁぁゝゝゝ！！」

生まれて初めて自分の命を危険に晒され、それを守ろうとする時だった。とても悲鳴なんてものとは言えない、もつと恐ろしい声が出た。全身から汗が吹き出し、鼻水、涙が止まらない、嘔吐もした、僕はどうなるんだ。

男達も力づくで運ぼうと思えば運べたのだろうが、面倒だったのだろう、マスクを僕に被せた。マスクの中で呼吸をしている内に意識が遠のいていく。

「（ああ、これで僕の人生も終わるか、あっけなかったな・・・）」

シリシリシリシリ

「う．．．ん．．．」

部屋に不快な音が響き渡る、目覚ましだ。寝起きこそ不愉快だったが、目が覚めてしまえば心地よい朝に変わった。がすぐ異変に気付く。

「はっ！！夢．．．だったのか？それにこの部屋は僕の部屋じゃない．．．」

異変は続く、夢であろうその「記憶」は気持ち悪いくらいに鮮明に覚えているがそれ以前のことか思い出せない。正確には一週間くらい前の記憶からほとんど曖昧になっている、ということだ．．．

一体なんなんだ、もし夢であるならば時間はまったく経っていないだろう、そう思いポストの新聞を取りに向かう。まるでこの部屋の構造を知っていたかのような足取りで迷わず玄関のポストに着いた。

「11月4日．．．なんだ、やっぱり夢か．．．」

同僚と飲んで帰宅したのが3日の夜だったのでいつもど通りの朝を迎えたかのように見えた。が、ある数字を見て目を疑った。

「200．．．9年！？嘘だろ！一年経ってる！！」

頭がおかしくなる、「夢」が「現実」なら一年間、あいつ等の実験にされていたのか．．．しかしこうして無事生きている。

「少し落ち着こう、死んだ訳じゃないんだ。」

そう言い聞かせ、顔を洗いに洗面所へ向かう、繰り返すがこの部屋は最初こそ初めて来た感じがしたが今ではまるで何年も住んでいる感じがする、気味が悪い。迷わず洗面所につく。そこで鏡をみて驚愕した。

「ぼ、僕の顔じゃない．．．」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0314m/>

---

交換 第1話

2010年10月9日21時51分発行